



Deva 100 Wood-fired Cook Stove



OWNER'S MANUAL

ディーバ 100 取扱説明書

ご使用上の注意	2
ストーブの操作	3
慣らし焚き	4
毎日のご使用	5
メンテナンス	6
トラブルシューティング	8

最大出力	11,600 kcal/hr
最大暖房面積	132 m ² (40 坪)
重量	219 kg
最大薪長さ	43 cm
使用煙突径／煙突方向	6 インチ／上・背面
燃焼効率	74 %
サイズ	w1016 x h855 x d598 mm
炉内サイズ	292 x 438 (h375) mm
オープンサイズ	w438 x h381 x d419 mm

この取扱説明書は、ストーブの安全、慣らし焚き、操作方法、メンテナンスについて理解していただくためのものです。お使いになる前に必ずお読みになり、いつでも参照できるよう、お手元に保管してお持ちください。

ヘルゴン日本総輸入元

長野総商株式会社

〒389-0207 長野県北佐久郡御代田町馬瀬口 1625-83

Tel: 0267-32-2353 / Fax: 0267-32-2690

ご使用上の注意

- ストープや煙突の近くに衣類、家具、カーテン、紙などの燃えやすいものがないことを確認してください。
- ガソリン、灯油などの可燃性の液体をストーブの側に置かないでください。
- 小さなお子様がいる場合にはハースゲート等を設置し、ストーブや煙突に近づかないようご注意ください。
- ストープ使用中は高温になりますので、火傷にご注意ください。
- 通常使用を始める前に、最低3回（3日）は必ず慣らし焚き（4ページ）を行ってください。
- よく乾燥させた薪を燃やしてください。
- 熱くなったストーブに薪を補充する際は十分注意し、補充時以外はドアを閉めておいてください。
- ストープ使用時には灰受け皿は常に取り付け、アッシュドアはしっかりと閉めてください。
- 天板（ガラストップ）に付着した汚れは定期的に拭きとり、常にきれいに保つよう心がけてください。
- 鍋等の調理器具を引きずらないでください。傷が付くとガラストップの寿命を縮める原因となります。
- 定期的に煙突の点検を行い、必要に応じて煙突掃除を行ってください。

焚き始めにはストーブや煙突表面から煙や匂いが出ますが、これは表面の塗料が焼けたもので、通常 10～20 分でおさまります。窓を開けて換気をしてください。

安全にお使いいただくために

- ストープを決して改造しないでください。
- キルン乾燥材、塗装木材、処理済木材、溶剤、ゴミ、合板、カラー紙、光沢紙、ボール紙、石炭、流木は燃やさないでください。特に、このストーブで石炭は決して燃やさないでください。
- ガソリンタイプ燃料、灯油、木炭用ライターオイル、または他の液体燃料を着火目的や燃焼を促進する目的で使用しないでください。これらの燃料は酸素を使い果たし一酸化炭素を発生させる恐れがあります。ストーブのそばには決して置かないようご注意ください。
- アッシュドアの損傷時や、アッシュドアを開けた状態でのストーブの使用は控えてください。
- フロントガラスに薪を立て掛けたり、ガラスに触れた状態で使用しないでください。
- ドアをボタンと強く閉めたり、ドアで薪を押し込むことはしないでください。
- 燃やしすぎないようにご注意ください。（焚きすぎの注意：5 ページ）
- 天板は大変熱くなります。調理器具以外は決して天板に載せないでください。誤って載せた物が熱で溶け、炉内へ流れ込み、引火する危険があります。
- 他のストーブに接続された煙突に接続しないでください。
- 家具、カーテン、衣類などの移動可能な可燃物は、ストーブから最低 1 メートル離してください。
- ストープから離れた場所に煙探知器の設置をお勧めします。消火器は手の届く場所に用意しましょう。

緊急時には

万が一、煙道火災が発生した場合、火災が激しいときは、直ちにその場を離れ、消防に連絡をしてください。火災が軽度の場合は以下の手順で対応してください。

1. 空気調整レバーを閉めてください。（もしあれば、ストーブパイプのダンパーを閉めます。）
2. フロントドア、灰受け皿をしっかりと閉めた状態にします。

煙道火災発生時の注意

ストーブ本体、煙突に決して水をかけないでください。煙道火災は大変高温になりますので、瞬間的に水蒸気を発生させ、身体的危害を引き起こす原因になります。

煙道火災がおさまった後も空気調整レバーは閉めた状態で、ストーブ内の炎が完全に燃え尽きるまで待ちます。ストーブ、煙突の点検を行い、損傷部分の交換・修理が終わるまで決してストーブを使用しないでください。

ストーブの操作

- ◇ 使用中はストーブが大変熱くなりますので、お子様が近づかないようご注意ください。また、ストーブのそばに可燃物を置かないでください。

ファイヤーボックスドア

開くとき：ドアハンドルを時計回りに9時の方向へ回します。

閉めるとき：ドアをしっかりと閉じ、反時計回りに6時の方向へ回します。ハンドルを引き、閉じていることを確認します。薪の補充時以外は、ドアを閉めた状態でお使いください。

フルーバイパス

ストーブに火を入れるときは、フルーバイパスを手前に引いてバイパスを開けます。この状態では、燃焼後のガスや煙が直接煙突へ流れるため、煙突が早くあたたまります。煙突があたたまりドラフトが起こるまでバイパスは開けたままにしてください。ドラフトが起こったらバイパスを閉じます。バイパスが閉じた状態では、熱が効率よく使用され、オーブンが温まり始めます。＊フルーバイパスを開けたまま燃焼を続けても、オーブンは温まりません。

プライマリーエアーコントロール（アッシュドア下部にある空気調節レバーを使います。）

燃焼室に入る空気の量を調節します。空気を入れるには左に動かし、空気量をしばらくしたいときは右へ動かします。空気量が多いと燃焼は加速し高温になり、少ないときはゆっくり燃焼します。

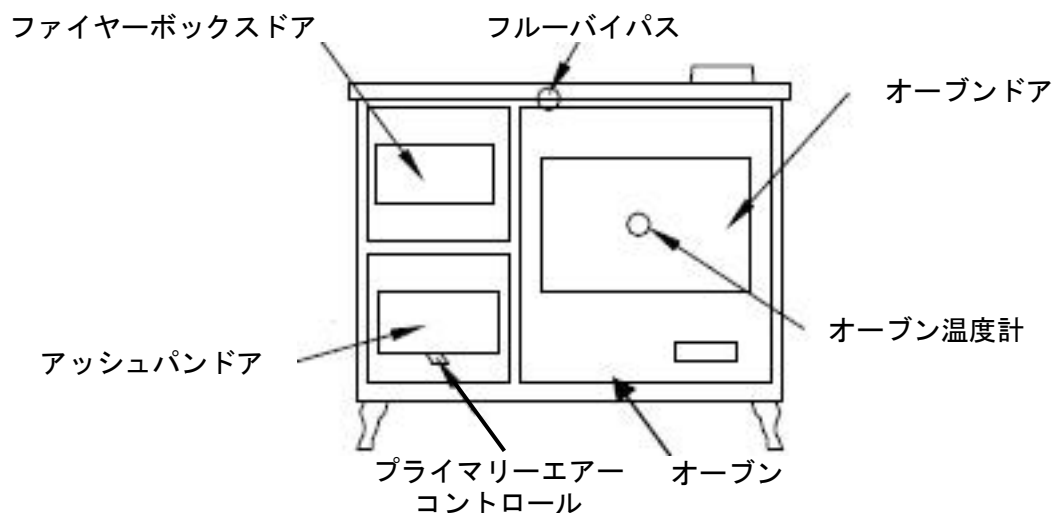
灰受け皿（アッシュパン）

- 灰受け皿を取り扱う際は、必ずストーブが冷めた状態で行ってください。
- ストーブ燃焼時には、灰受け皿を取り出さないでください。

炉床にあるグレー特を動かして灰を灰受け皿に落としたら、アッシュパンドアハンドルを9時の方向へまわして開け、灰受け皿を引き出します。灰の処理はストーブが冷めた状態で行ってください。灰受け皿がまだ温かい場合には革手袋をお使いください。灰を扱うときには細心の注意を払ってください。

灰を処理したら灰受け皿を元の場所へ戻し、アッシュドアを6時の方向へ回してドアを閉じてください。

（6ページの灰の処理もご参照ください。）



灰受け皿を外した状態や、しっかりと納まっていない状態では、決してストーブを使用しないでください。燃焼中は必ずアッシュパンドアを閉めてご使用ください。過度燃焼を引き起こし、ストーブの損傷の原因になります。

薪について

ディーバ 100 は薪専用クッキングストーブです。化学薬品、またはガソリン、ナフサ、灯油、木炭用ライターオイル、エンジンオイルなどの可燃性の液体を着火剤として使用しないでください。木炭、ペレット、石炭など薪以外の燃料を使用しないでください。また、ゴミを燃やさないでください。

熱量、燃焼時間、ストーブの性能には薪の質が影響します。軟木（針葉樹）は火力が上がりやすい反面火持ちが悪く、堅木（広葉樹）は炭が多く火持ちがよく、暖める力が大きいため、理想的な薪であると考えられます。

薪の水分含有量もストーブの性能に大きく関わります。切ったばかりの生木には水分が多く含まれ、なかなか燃えません。薪ストーブで使用するには、事前によく乾燥させることが重要です。割った薪は日当たりがよく風通しのよい場所で、直接地面に触れないよう木製のパレットやブロックの上に積み、少なくとも一年（広葉樹なら二年）乾燥させます。雨に濡れないよう上だけ覆います。側面を覆うと水分が逃げず、乾燥しません。

慣らし焚き

ストーブを慣らすため、本格的なご使用の前に必ず慣らし焚きを行ってください。新しいストーブを一気に高温で使用すると、**鋳物やその他の部品に割れや破損が生じる恐れがあります**。焚き始めには表面から煙や匂いが出ますが、これは塗料が焼けたもので通常 10～20 分でおさまります。窓を開けて換気をしてください。

<注意> 慣らし焚きの最中で、まれにストーブの底面より黒い液体が少量滴ることがあります。これは低温燃焼で行うために生じるもので、慣らし焚きが完了すればおさまります。炉台が汚れる可能性がありますので、気になる場合には事前にストーブの下や足元に不燃性のものを敷くなどして炉台を保護してください。

破損の恐れがありますので、以下にご注意ください。

- ストーブの中に薪を投げ入れたり、薪をドアで押し込まないでください。
- フロントドアを使って薪を押し込まないでください。
- 表面の凍った薪を燃焼中のストーブの中に入れないでください。熱衝撃により破損する恐れがあります。
- 炉内には既製品のグレートやロストルを置かず、炉床の上で直接薪を燃やしてください。

慣らし焚きの手順

- ① 換気のため、窓を開けます。
- ② ドアを開け、着火剤か、固くねじった新聞紙 5，6 本を炉内中央に置きます。その上に小割りにした焚きつけ（直径 15 ミリ程度）を 10 本ほど交差させて置きます。
- ③ フルバイパスを手前に引いてバイパスを開けます。
- ④ プライマリーエアーコントロールを左へ動かし、いっぱいに開きます。
- ⑤ 着火剤に点火します。焚きつけが燃焼しドラフトが起こるまで、少しの間ドアを少し開けておきます。
- ⑥ 燃焼室のドアを閉めます。
- ⑦ 慣らし焚きではストーブを暖めるのが目的なので、**触れないほど温度を上げないように注意してください**。細めの薪を 2，3 本足す程度で安全な慣らし焚きに必要な温度に達するはずです。
- ⑧ ストーブが温まったら薪が燃え尽きるまで燃やし、室温になるまで冷まします。

慣らし焚きは最低 3 回（3 日）、上記手順で必ず行ってください。最初のご使用前だけでなく、毎年のご使用前に慣らし焚きを行うことをお勧めします。毎年続けることでストーブは整えられ、きちんと応えてくれます。

<注意> 慣らし焚きでは煙突内の温度が低いいためクレオソートが付着しやすく、またフロントガラスに汚れが付きやすくなります。

毎日のご使用

ご使用前には、グレートと灰受け皿が所定の位置にあることを確認してください。取り付けしていない状態での使用は焚きすぎを引き起こし、ストーブの損傷につながります。

点火方法

- ① ドアを開け、着火剤か、固くねじった新聞紙 5, 6 本を炉内中央に置きます。その上に小割りにした焚きつけ（直径 15 ミリ程度）を 10 本ほど交差させて置きます。
 - ② フルーバイパスを手前に引いてバイパスを開けます。
 - ③ プライマリーエアーコントロールを左へ動かし、いっぱいに開きます。
 - ④ 着火剤（新聞紙）に点火します。焚きつけに火が点き上昇気流（ドラフト）が起こるまで、少しの間ドアをかすかに開けた状態にします。
 - ⑤ ドアを閉めます。
 - ⑥ 焚きつけが燃えてきたらドアを開け、薪を追加します。最初は細めの薪を足し燃焼を促進させます。薪はフロントガラスから離してください。薪の補充時以外は、ドアは閉めておきます。
 - ⑦ よく燃えてきたらバイパスを閉じ、プライマリーエアーコントロールで燃焼温度を調節してください。
- 薪の補充時に燃焼室のドアを開けるときは、その前にフルーバイパスを開けてください。バイパスを閉めた状態で燃焼室のドアを開けないでください。
 - 燃焼室のドアを開けるときは最初に少しだけ開け、間隔を置いてからゆっくりとドアを開けます。こうすることで炉内の煙がなくなり、煙の逆流を防ぎます。薪の補充時以外はドアを閉めてご使用ください。

燃焼温度

高温燃焼：十分に熾きができた状態、または薪がよく燃えている状態で薪を追加し、プライマリーエアーコントロールを左に動かして開きます。高温燃焼は一日に 1, 2 回としてください。高温燃焼によりストーブパイプと煙突を暖め、クレオソートの付着を抑えます。

中温燃焼：プライマリーエアーコントロールをちょうど中間の位置まで動かします。この燃焼温度が標準セッティングで、ストーブの周りに人がいない場合には、この状態が望ましいとされています。

低温燃焼：プライマリーエアーコントロールを右へ動かします。長時間の低温燃焼はクレオソートの付着を促すため、お勧めしません。低温燃焼が継続される場合は、煙突をまめに点検してください。

<焚きすぎの注意>

損傷を防ぐため、**焚きすぎの状態では絶対に使用しないでください**。焚きすぎの状態では、ストーブやストーブパイプからうなるような音が聞こえたり、ストーブパイプに変色が見られます。オープン温度計で 300°C 以上は焚きすぎです。250°C に達したら薪の補充は控え、プライマリーエアーコントロールを閉じてください。

焚きすぎの主な原因

ドラフト：引きが強すぎる場合は販売店にご相談ください。

使用燃料：石炭、キルン乾燥木材など、自然乾燥させた薪以外は燃やさないでください。

操作方法：ドアを開けた状態で、またグレートや灰受け皿を外した状態でストーブを使用しないでください。

メンテナンス：ガスケットをチェックし、剥がれたり擦り切れたりしたものは交換してください。

焚きすぎが疑われる場合には販売店にご相談ください。**焚きすぎによる損傷は保証対象になりません**。焚きすぎによる損傷には、内部パーツのゆがみや焼損、外部パーツの変色やゆがみが含まれます。

メンテナンス

定期点検チェックリスト

週に一度	☐ 炉内と灰受け皿の灰をチェックし、必要に応じて灰を処理してください。
月に一度	☐ 室内煙突を軽く外側から叩き、ススの付着具合を確認します。ススがさらさらと落ちたり、中が空洞のように軽く感じる場合、ススの付着は進んでいないでしょう。煙突がずっしりと重いように感じる場合には、クレオソートが蓄積している可能性がありますので、使用前に煙突掃除を行ってください。
二ヶ月に一度	☐ 使用頻度に応じ、煙突内のクレオソートをチェックしてください。 ☐ ドアガasketをチェックしてください。ストーブが冷めた状態のときに紙をはさんでドアを閉め、そのまま抵抗なく紙が抜ける場合は、ガasketの交換時期です。
シーズンの終わり	☐ 煙突を点検し、煙突掃除を行ってください。 ☐ 炉内、オープン内、オープンドアの掃除を行ってください。 ☐ ドアガasketをチェックし、磨耗、擦り切れ、亀裂や極度に硬くなっている場合は交換してください。

クレオソートの形成と除去

薪がゆっくりと燃えている（燃焼温度が低い）状態ではタールやその他の有機蒸気が発生し、蒸発した水分と組み合わせあってクレオソートを形成します。クレオソートはゆっくりと燃えているストーブの、比較的温度の低い煙突に付着し、結果的に蓄積されてしまいます。クレオソートに引火すると極めて高い温度で燃焼し、煙突にダメージを与えるだけでなく、ときには建物の火災をも引き起こします。シーズン中は、2ヶ月に一度はストーブパイプと煙突内を点検し、クレオソートの形成が進んでいないかどうか確認することをお勧めします。クレオソートの厚みが6ミリ以上のときは、煙突火災予防のため煙突掃除を行ってください。

クレオソートの形成を防ぐには、毎日焚き始めに30分程度、空気調節レバーを全開にして燃やします。また、薪を補充した後も、20～30分は空気調節レバーを全開にして燃やします。燃焼室の温度が高温になることで効率よく燃焼し、煙道内のクレオソートの形成を最小限に抑えることができます。

フロントガラスが汚れやすい場合は燃焼温度が低く、クレオソート形成の危険性が高いと考えられます。表面温度が低い部分はクレオソートの形成が進みやすいため、煙突を点検するときは、最も温度が低いストーブとの接続部とトップに近い部分を点検してください。

クレオソートの除去には、使用煙突に合ったブラシを使い、煙突掃除を行ってください。また、シーズン前には、専門業者による点検、掃除をお勧めします。

灰の処理

灰を処理する際は、ストーブが完全に冷えてから行ってください。灰受け皿がまだ暖かい場合には、革手袋をご使用ください。灰の扱いには十分ご注意ください。

1. グレートを動かし灰を灰受け皿へ落としたら、灰受け皿をゆっくりと手前へ引いて取り出します。灰を処理し終わったら灰受け皿を元の位置へ戻し、しっかりと納まるように最後まで奥へ押し込んでください。
2. 灰は金属製のフタ付き容器へ移します。容器の中へ灰以外のものを入れないでください。灰を容器へ移したら、フタを閉めて空気を遮断し灰を冷まします。容器が熱くなることがありますので、灰を入れた容器は可燃性の床の上には置かないでください。

灰の中に残った炭は数日間熱を保つ場合があります。灰が完全に冷えるまでは必ずフタをした状態で、不燃性の床か土の上に置き、可燃物から離しておいてください。木製やプラスチック製の容器、紙袋やビニール袋には決して灰を入れないでください。

ガスケットの交換

ガスケットはストーブの気密性を保ち、燃焼効率を上げる役割をします。定期的にガスケットチェックを行い、気密性が低下している場合には交換してください。

ドアガスケット交換手順

古くなったガスケットを外し、ドライバーやワイヤーブラシ等で溝をきれいに掃除します。専用接着剤（ガスケットボンド）を溝に注入し、ガスケットを溝に押し込みます。ガスケットは引っ張らないようにしてください。すぐにドアを閉め、ガスケットを溝に定着させます。

使用ガスケット	ガスケット太さ	長さ
ファイヤーボックスドア	1/4 インチ（6.4 mm）	102 cm
ファイヤーボックスドアガラス	テープ付きガラス用ガスケット	102 cm
アッシュパンドア	1/4 インチ（6.4 mm）	102 cm

ドアガラス

燃焼室のドアに使用されているガラスは熱衝撃に強い薪ストーブ専用のものです。必要に応じ、薪ストーブ専用のガラスクリーナーで汚れを取り除いてください。ガラスのお手入れは、ストーブ使用中やガラスが熱いときは避け、必ずストーブが冷めている状態で行ってください。

<注意>

- ガラスに衝撃を与えたり、ドアを勢いよく閉めないでください。
- ガラスに割れやひびが生じたときは、ストーブを使用しないでください。
- 表面に引っかき傷ができるとガラスの強度が落ち、割れる危険性があります。カッターなどの鋭利な刃物、スチールウールや研磨剤を使ってガラスの汚れを落とさないでください。
- 破損時は速やかに新しいガラスに交換してください。交換時は作業用手袋と保護メガネをご使用ください。
- 薪ストーブ専用以外のガラスは決して使用しないでください。

ガラストップ（天板）

調理器具の底で天板を傷つけないようご注意ください。火を入れる前に、天板の汚れをきれいに拭きとってください。十分な大きさの調理器具を使用し、表面温度に気をつけ、吹きこぼれにご注意ください。吹きこぼれたときは、なるべく早く拭き取り、焦がさないようご注意ください。アルミホイルを天板の上に直接載せた状態で決して調理しないでください。天板を傷める原因となります。飛び跳ね防止に、フタをご使用ください。

鋳鉄のお手入れ方法

鋳鉄はエナメル仕上げを施しています。湿らせた布で汚れをふき取り、サビを防ぐためよく乾かしてください。

エナメル仕上げのストーブにはやわらかい布をご使用ください。落ちにくい汚れにはガラスクリーナーの使用も可能です。エナメル部分を傷つけますので、研磨剤は使用しないでください。エナメル仕上げの表面は、ご使用とともに、細かい線状の貫入が現れることがありますが、これは自然な現象で欠陥ではありません。

トラブルシューティング

直面する問題のほとんどはちょっとした操作の調整などで修正が可能です。天候状態がストーブのパフォーマンスに影響する場合、問題は概して一時的なものである場合が多く、天候が戻れば自然と解消します。

ドラフトが簡単に起こらない日もありますが、ほとんどは季節的な要因と煙突が温まりにくいことが原因です。そのようなときは、細い焚きつけを使って火をおこし、より速く火力が上がるようにします。速く煙突が温まりドラフトが発生するよう、こまめに細い薪を補充して火の面倒をみましょう。

ドラフトに影響を与える要因

- **高気密住宅**：高気密住宅の場合には室内の空気が不足し、換気扇や衣類乾燥機などの使用により、さらに状況を悪化させます。
- **背の高い木や建物**：煙突のトップ近くに高い木や建物がある場合、煙が逆流することがあります。慢性的あるいは一時的な場合もあります。煙突を設置する際には、周辺の建物の位置を考慮する必要があります。
- **風**：突発的な風は煙の逆流を招く原因となります。
- **気圧**：穏やかな日、雨の日、蒸し暑い日はドラフトが起こりにくいとされますが、天候が変われば解決します。
- **活発な燃烧**：ストーブの火が強く、煙突の温度が上昇すると、強いドラフトが起こります。
- **煙突の部材接続部**：点検口や部材接続部などがしっかりと密閉できていない場合、十分なドラフトが起こらない原因となります。
- **季節**：秋口や春の終わりは適度なドラフトが起こりにくい季節です。室温と比べて外気温が低いほうが、ドラフトが発生しやすいと言われます。

トラブルシューティングガイド

問題	考えられる原因	解決方法
煙の逆流	操作方法	ドアを開ける前に空気調節レバーを1分間全開にし、薪の補充後も数分間全開の状態で燃やしてください。
	煙突が暖まっていない	着火時に細い薪を燃やし、しっかりと煙突をあたためてください。
	煙突の詰まり	クレオソートの付着が進んでいないか点検し、必要であれば煙突掃除を行ってください。
	煙突が短い	煙突を付け足してください。
	灰が多すぎる	灰の除去を行ってください。
燃えが速い	ドアからの空気漏れ	ドアをしっかりと閉めるか、ガスケットを交換してください。
	ドラフトが強すぎる	空気調節レバーを閉めてください。煙突の点検をし、必要であればダンパーを取り付けます。
	セメントの劣化	炉内の耐火セメントを充填しなおしてください。
	煙突が長すぎる	煙突を短くするか、ダンパーを取り付けてください。
	煙突が太い	適した口径の煙突に交換してください。
温かくない	薪が乾燥していない	最低でも1年間（広葉樹は2年間）乾燥させた薪をお使いください。
	燃烧温度が低い	高温燃烧を心がけてください。
	屋外でのシングル煙突の使用	断熱二重煙突に交換してください。
	煙突やストーブパイプの空気漏れ・劣化	煙突の点検を行ってください。
	建物からの熱損失	窓のコーキングなどの補修を行ってください。